

今週のメニュー

[トピックス](#)

塩ビ製楽器による演奏 in Bangkok

[随想](#)

塩ビフォーラムの開催に想う

- 近畿化学協会と共催で新たなスタート -

塩ビ工業・環境協会 一色 実

[お知らせ](#)

【NEW】「塩ビものづくりコンテスト」新ポスターができました。

[編集後記](#)

トピックス

塩ビ製楽器による演奏 in Bangkok

昨年、京都で開催された APVN 総会が、先月中旬、バンコクで開催されました。11月のバンコクは、雨季も終わり過ごし易いシーズンに入ったとはいうものの、それは南国、外は30℃を越える暑さでした。

今年は、APVNの総会のほかに、PVC Industry and sustainable development と題するセミナーも開催され、政府関係者の他、地元の塩ビ関係者が大勢集まり、塩ビ産業に関わる輸送安全への取組や日米欧の塩ビ産業界の動きなどについて熱心に情報交換が行われました。

昨今の新聞等で報道されているとおり、国内の塩ビ関連会社のアジアへの進出が盛んに行われていることから、日本からは、可塑剤工業会と塩ビ食品衛生協議会の方々も講師として参加し、添加剤に関する最新情報の提供を行っております。

セミナーでは、演題の合間にちょっと変わった塩ビを素材として作られた楽器の演奏がありましたので、簡単に紹介します。

塩ビ製の楽器といえば、練習用の尺八として塩ビパイプが利用されたり、スピーカーの本体としても塩ビパイプが使われていることをメルマガでも紹介したことがあります。今回目にしたのは、一種のシロフォンのような打楽器です。L字型の塩ビパイプを基本に組み合わせ、縦管にパチで叩く部分があり、地面側の横管の長さで調律されていました。

音色は全体的に地味な感じですが、形状の異なるパイプを組み合わせることにより、音の高低ばかりでなく、音色も独特なものを醸し出していました。壇上では、4名による演奏が披露され関心を集めていました。



塩ビパイプ楽器による演奏風景

塩ビパイプを使った音楽といえば、「ブルーマン」がすっかり有名ですが、日本以外のアジアの国でも、似たような発想で芸術が作られていることに感心した次第です。

今回の APVN 総会では、活気のあるアジア市場を垣間見ることができました。(了)

随想

塩ビフォーラムの開催に想う

- 近畿化学協会と共催で新たなスタート -

塩ビ工業・環境協会 一色 実

12月3日に、「第2回塩ビ(PVC)フォーラム」を近畿化学協会とVECが共催で開催しました。このフォーラムは59回続いた「塩ビ討論会」の後継で、昨年の「塩ビフォーラム」から東京に会場を移して開催されています。大阪市立大学大学院工学研究科の圓藤教授が近畿化学協会ビニル部会長として長年牽引頂き、改めて重合工学部会PVC委員会として衣替えし、委員長として開催されたフォーラムです。



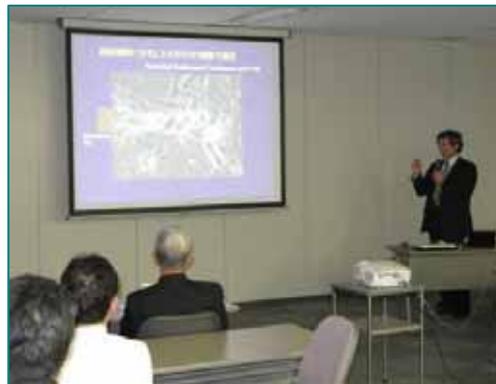
—昨年の「第59回ポリ塩化ビニル(PVC)討論会」は大阪市立大学交流センターホールで開催され、圓藤先生の研究室で取り組まれている2件の研究発表と5件の招待講演が行われ、塩ビ研究の関係者が多く集って、隆盛だった昔話に花を添えて語り合いました。私も、招待講演2で「世界のポリ塩化ビニルの動向」と題して講演し、アジアをはじめ世界の動向を見て、塩ビ産業全体の協力と次世代の人材育成の重要性を強調したことを覚えています。

昨年開催された「第1回塩ビフォーラム」では、圓藤先生のご挨拶と中国での塩ビ製造関連の情報提供、大阪市立大学の土屋先生の塩ビ精密重合関連文献調査結果発表、VEC関専務理事による世界の塩ビ関連情報提供があり、研究技術者の集いとして継続する意思を示しました。

ここ数年の傾向として、塩ビ関連の研究発表のテーマが固定化し、積極的な応募も少なくなってきたことが挙げられ、研究・技術者の期待も関心も薄れて来たように感じていました。そこで、孤軍奮闘頂いている圓藤先生と近畿化学協会の廣澤専務理事様に相談して、進め方と発表テーマの発掘を手伝わせて頂きました。幸いに、ここ1年余りの間に、塩ビ広報の視点で、色々な方とお話する機会が増え、多方面の先生方とのネットワークも出来てきたことから、少し冒険をさせて頂きました。

従来と大きく異なる点は、ひとつは塩ビレジンの研究だけではなくテーマに広がりを持たせて裾野を広げることでした。そのために、塩ビに関わりを持たれなかった先生方をお願いして、現在進めている研究を発表頂くことにしました。二つ目はシーズ研究よりもニーズから進める研究テーマを選びました。ややもすると研究者はシーズに拘り、製品化の過程で大きな壁に阻まれることが多いもので、その参考にしたいと願いました。三つ目は一流の研究者としての拘りで、まわりを魅了して協力を取り付けて実現していく姿勢に打たれてほしいと思いました。

今回お願いした先生方はどなたも本業の研究でお忙しいにも関わらず、二つ返事で引き受けて頂き、当日の塩ビフォーラムで講演発表頂きました。会場の六甲ビルの2階会議室に用意した席を埋め尽くし、約60名の参加を得て無事に開催できました。初めにV E Cを代表して、土屋理事にご挨拶を頂き、私から「環境・資源問題を軸にした塩ビの新たな可能性」の演題で講演させて頂きました。続いて、東北大学大学院環境科学研究科の吉岡教授から「置換型脱塩素化反応によるポリ塩化ビニルのケミカルリサイクル」、日本大学生産工学部建築工学科の湯浅准教授から「塩ビサイディング材の遮塩性評価に関する研究」、黒河内デザイン事務所の黒河内女史から「軟質塩ビ素材を用いたデザイン創作の試み」の発表を頂きました。



升島教授の招待講演

吉岡先生はV E Cのリサイクル支援制度の評価委員をお願いしている方で、P V Cの化学修飾による機能付与の可能性を示されています。湯浅先生は塩ビサイディング材のR C躯体への保護効果を専門の暴露実験で評価頂いている先生のおひとりで、共同研究の琉球大学山田教授と一緒に研究されています。また、黒河内女史は服飾デザインが専門の方で、軟質塩ビ素材にご興味を持たれたことから株式会社三洋様とアキレス株式会社様のご協力を得て作品を制作された経験をお話し頂きました。

最後に、広島大学大学院医歯薬学総合研究科の升島教授に「電気自動車の開発研究」の演題で講演頂きました。専門外の分野で、地元の地域起こしにも繋がるテーマに邁進され、いくつもの課題に挑戦されている姿勢には頭が下がります。お話も魅力的で分かりやすく、皆さんが聞き入っていました。

講演後に場所を8階に変えて行われた意見交流会には40名の方が参加され、圓藤先生からご挨拶を頂きました。会場では分野の違う先生方を囲み、いくつものコラボレーションが生まれました。厳しい状況が続く中であって、塩ビに関わる研究・技術者が前向きに視野を広げて取り組みことが求められていると思います。この塩ビフォーラムが更に良い方向に展開されることを願い、皆さまのご協力を改めてお願いします。(了)

お知らせ

【NEW】「塩ビものづくりコンテスト」新ポスターができました。

[メールマガジン No.293](#)でご紹介した、「塩ビものづくりコンテスト 2011」の募集要領などを掲載した、新しいポスターを作成しました。

一般の方やデザイン学校の学生さんなどを対象に、お知らせしていく予定です。

ご興味のある方は、以下をご覧ください。

[応募要領](#)

[フライヤー（募集チラシ）](#)

[応募詳細（塩ビものづくりコンテスト2011）](#)



新ポスター（拡大）

編集後記

先日、国際的な学習到達度調査「PISA」の結果が公表されましたね。日本の子供の学力は、読解力が回復したものの、科学・数学は横ばいとのこと。私は数字に弱く、小学校の“算数”から苦手だったのですが、毎日数字とは何かしら関わらずにいられませんね。苦手とは言え、数字でちょっと楽しくなることもあります。例えば、先日、買い物をしたら合計が1,111円でした。何か良いことがありそうな気になりますよね？ネットでHPを見ている時、カウンターが切りの良い数字だと、なんとなく良い気分になりませんか？

切りの良い数字といえばこのメールマガジン、おかげさまで300号を迎えることができました。ご愛読ありがとうございます。今年は今号で切り良く終わり、来年は1月7日(金)に301号から心新たにスタートします。今後とも、よろしくお願い申し上げます。(漠)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp
